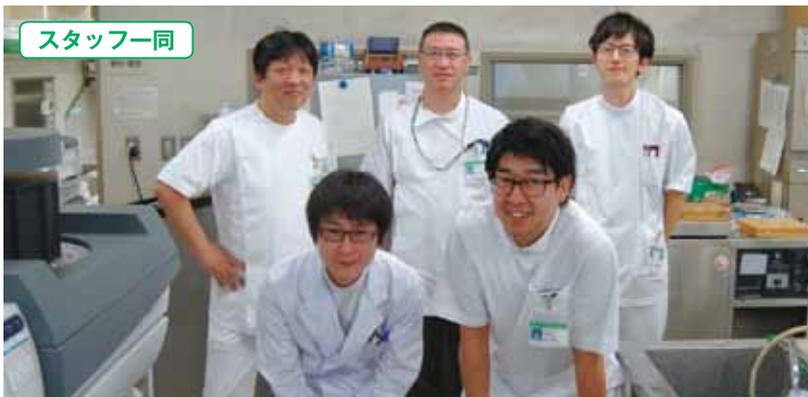




薄切作業



スタッフ一同



採取された組織や細胞を診断中



大腸ポリープの標本

尿細胞診の標本

顕微鏡像

顕微鏡像

病理診断をしている研究検査科をご存じですか？

研究検査科部長 岸 宏久

研究検査科部長の岸宏久です。私は当院で病理診断の仕事に携わっています。フジテレビで放映された「フラジャイル」というドラマをご存じですか？ 普段は患者様に直接触れられる機会がないので、多くの方々は「病理」という言葉にあまりなじみがないと思います。このドラマは長瀬智也さんや武井咲さんが扮する病理医が主役です。普段の病理医の仕事がよく描かれていて、ドラマを通じて病理のことを多くの人に知ってもらえたのではないかと期待しています。

さて、病理とは何をしている部門なのか？ということをご紹介したいと思います。

簡単にいえば病理とは、患者様より採取された組織や細胞から病気の診断をする部署です。病理の仕事は大まかに①組織診、②細胞診、③術中迅速診断、④病理解剖の4つに分けられます。紙面の都合により、この内①組織診と②細胞診について簡単に説明します。

①組織診として分かり易い例を示し説明します。胃カメラや大腸カメラでポリープなどが見つかった場合、その一部を採取して悪性かどうかを調べます。採取自体は消化器内科医や外科医などが行いますが、採取されたサンプルはホルマリンが入ったビンに入れられ、病理に提出されます。病理ではこれをパラフィンで固め、特殊なカッターを用いてカンナで削るように組織を薄く削ぎ、これをガラスに貼り付けます。この作業は熟練を要し、技師の腕に標本の出来映えがかがつきます。

貼り付けられた標本は無色ですが、染色液

であるヘマトキシリン液、続いてエオジン液に漬けることにより細胞の核が青色、細胞質がピンク色に染まり、顕微鏡で観察することができるようになります。標本が完成すればここからが病理医の仕事です。顕微鏡を覗きながら良性なのか悪性なのか、腫瘍ならどの種類の腫瘍なのかを判定します。

②の細胞診は組織診よりも簡便に採取できるサンプルが対象です。例えば子宮癌検診で実施される子宮擦過細胞診や尿細胞診などです。膀胱癌が存在すると癌細胞が尿に混じることがあるため、尿に含まれる細胞を調べます。提出された尿を遠心器にかけて細胞を沈降させ、それをガラスに付着させます。これを組織診で行ったように染色し、顕微鏡で異常細胞の有無を調べます。細胞診では細胞検査士という資格をもった技師が顕微鏡を覗きながら判定しています。

同愛記念病院では常勤病理医は私1人ですが、前部長の手島先生と木脇先生に非常勤病理医として手伝っていただいています。そのほかに細胞検査士の資格を有する4名の優秀な臨床検査技師と共に病理部門を運営しています。

病理の仕事に限界はありません。いくら勉強しても難しい症例が出現し、それらに挑んでいく必要があります。全身のあらゆる臓器が対象です。我々は日々勉強しこれらから出会うであろう症例に備えます。多くの方々にはあまり知られていない我々の仕事ですが、毎日縁の下から病院を支えています。どうぞよろしくお願ひします。

リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科
医長 長谷川清一郎

リハビリテーションとお聞きになって、マッサージなどを想像される方も多いと思います。実は、患者様が病気や外傷（骨折など）から日常生活に戻っていく治療過程全体に、リハビリテーションは関わっているものです。

例えば、骨・関節の病気や骨折・靭帯損傷などに対して、整形外科では人工関節置換術や靭帯再建術、骨折の固定術などの手術を行います。しかし、手術しただけでは関節可動域の拡大や筋力増強、歩行などの運動が出来るようになるわけではありません。術後早期から適切なリハビリテーションを行うことで、はじめて、正常な生活やスポーツに復帰することが出来るようになります。手術直後から、痛みのコントロールなどについては担当の科とも協力をして、リハビリテーションを行い、早期退院、早期社会復帰のお手伝いをします。

また、リハビリテーションは退院すれば終わりというものではなく、退院後のフォローアップも重要です。退院後、自宅でも安心してリハビリテーションを続けられるように、自宅で行えるリハビリテーションプログラムや注意事項を患者様にお渡しします。もちろん整形外科の疾患だけでなく、脳卒中、肺炎など内科的治療後や外科手術後などの筋力低下や可動域の減少などに対しても、リハビリテーションを行っています。

ここでリハビリテーションを担当する専門職種についてご説明させていただきます。主に体幹や下肢などの障害に対し、関節の可動域訓練・筋力強化などの運動療法や除痛目的の物理療法を行い、歩行などの運動能力の改善をお手伝いするのが理学療法士（PT）です。

一方、肩から肘さらに手指までを含む上肢は、より繊細な動きが要求され、日常生活を行う上で非常に重要です。このような応用動作の獲得を、作業を通じてお手伝いするのが作業療法士（OT）です。必要に応じて病状に合った装具も作製（装具療法）します。

もちろん、症状に応じて理学療法士（PT）、作業療法士（OT）が同時にリハビリテーションを行っていく場合もあります。

最近では、社会保障制度の変化に伴い、医療の効率化、早期退院の励行などが強く求められております。このため、以前のように、ゆっくり入院でリハビリテーションをやってから退院するという治療は難しくなっております。

一方、高齢化社会が進み、リハビリテーションへの期待も益々高まっております。リハビリテーションは患者様を中心に、ご家族とリハビリスタッフが協力しあって進めていかねばなりません。皆様の期待に沿えるよう、努力を続けていきたいと思っております。



OTスタッフと長谷川医師（写真右）



PTスタッフ

同愛記念病院の理念

同愛記念病院は地域の要請をふまえ地区の基幹病院として親切で適切な医療を提供し社会に貢献します。

〈診療科目のご案内〉

循環器内科、血液内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、一般内科、神経科・精神科、アレルギー呼吸器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

〈病床数〉 403床

■交通案内

JR総武線 両国駅（西口）から徒歩7分
都営地下鉄浅草線 蔵前駅から徒歩10分
都営地下鉄大江戸線 両国駅から徒歩5分
●都営バス（錦糸町～大塚駅）石原1丁目停留所から徒歩3分

当院では外来予約制です。

初診/（月～金）午前8時30分～正午（紹介状のある方は午後3時）

（土）午前8時30分～午前11時

再診/ご予約のない方：自動再来受付機にて午前8時～正午

次回のご予約は診察後にお申し込みください。

休診日/日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）



社会福祉法人 同愛記念病院財団

同愛記念病院

〒130-8587 東京都墨田区横網2丁目1番11号

TEL. 03-3625-6381（代） FAX. 03-5608-3211